

【社会】 < 中学校 第1学年 >

1 結果のポイント

「地理的分野」については、都道府県の名前と位置を理解するとともに、資料からその地域の特色を読み取る力をみる問題、地形図に表されている地域の様子を読み取り、その地域の特色を適切に考える力をみる問題の正答率はいずれも90%を上回っている。他方、地形図における方位を正しく理解し、地形図に表されている地域の様子を読み取る力をみる問題の正答率は50%程度であり、読図の力がやや弱い。

「歴史的分野」については、わが国の歴史を世界の歴史を背景に、古代から戦国時代までの各時代の学習内容をみる問題が出題されている。原始時代から平安時代までの学習内容をみる問題の正答率はいずれも70%を上回っている。他方、文化財を時代の特色と結びつけたり年代順に並べたりして理解しているかをみる問題、戦国時代のヨーロッパ人の来航にかかわる課題を解決するために必要な資料を選択し、それを使って適切に説明する力をみる問題の正答率は60～65%程度であり、文化財と時代を結びつけて考える力や資料を使って自分の考えを説明する力が十分身に付いているとはいえない。

2 結果の分析

(1) 「知識・理解」の力をみる問題の例

< 問題 > 1の1 1の3

1 次の略地図を見て、1～3の問いに答えなさい。

1 Aの大陸をなんとよんで いますか。ア～エの中から、一つ選び、その符号を書き なさい。

ア 北アメリカ大陸

イ 南アメリカ大陸

ウ オーストラリア大陸

エ アフリカ大陸

3 日本と一番時差が少ないと考えられるのは、略地図中の□～□のどの

(2) 「資料活用・表現」及び「思考・判断」の力を見る問題の例

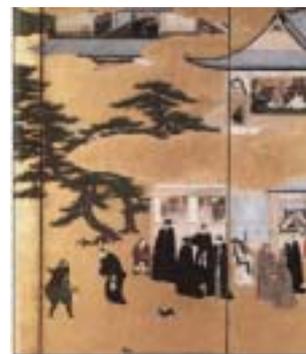
<問題> 7

7 花子さんたちの班が、ヨーロッパ人
来航について調べて、発表したとき、「日 ア
本ににわたったヨーロッパの文化は、日本
にどのような影響をもたらしたのです
か?」という質問を受けました。

次のア、イの資料のうち、どちらかの
資料を使って、この質問に答えるとした
ら、どちらの資料を使い、どのようなこ
とを説明しますか。使う資料を一つ選び、
その符号と説明する内容を書きなさい。



イ



<結果> 7 正答率 57.9%

<分析>

この問題は、「ヨーロッパ人の来航にかかわる課題を解決するために必要な資料を選択し、それを使って適切に説明することができるかどうか」を問う問題である。誤答としては、ヨーロッパ人の服について注目して書かれたものや、資料から読みとれることのみ記述に終わっていることなどから、資料から読みとれることと歴史上の出来事を関連させて説明することが十分にはできていないことを示していると考えられる。また、無回答が7%以上見られることも含め、日常の授業の中で自分の考えを資料を基にしてまとめる学習や、資料から見つけた事実を根拠として考えをより確かなものとして深めていく学習の一層の充実が望まれる。

3. 分析を踏まえた指導方法の改善

(1) 指導計画の工夫改善

地理的分野、歴史的分野の2つの分野とも、基礎的・基本的な知識の定着については、それをさらに生きて働くかたちで身に付けさせるように指導計画の改善を図っていくことが必要である。例えば、生徒の生活との結びつきを大切に教材開発を行うことや、遣唐使や天平文化についての知識を身に付けさせるときに、奈良時代の歴史の大きな流れや特色とかかわらせたりするといったように単元を構造化して授業の結びつきを図ることなどが考えられる。これについては、県の「学力向上プラン」における各事例を参考にし、より充実した指導計画の作成に努めたい。

(2) 指導方法の工夫改善

「技能・表現」及び「思考・判断」の力を十分に身に付けさせていく必要がある。そのためには、作業的・体験的な学習を通して幅広い資料を積極的に活用し、資料を読みとり多面的・多角的に考察することや、考察した過程や結果を適切に表現することの充実を図ることが望まれる。特に、地理的分野の「(2) 地域に応じた調査」の「ア 身近な地域」の学習においては、地形図を読むだけの学習を行うのではなく、野外調査や航空写真と結びつけるようにして生徒に景観として具体的にイメージできるように指導する必要がある。

また、課題解決的な学習や身近な地域の歴史を取り入れた学習を推進し、生徒の歴史に対する興味や関心を高め、生徒が歴史を主体的に学習できるよう配慮したい。

さらに、記述式になると正答率が下がることから、表現力を高めることが必要である。そのためには、ノートづくりにおいて、板書を写すのではなく板書の言葉を使ってポイントをまとめ、それを使って課題についての自分の考えをまとめるといったノートづくりの充実を図ったり、学習活動の中に地図、年表、統計資料や新聞などをつくる活動を取り入れたりすることが考えられる。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成

学習集団の育成については、社会的事象に興味・関心をもち、社会的事象の意味を追究をするという点で、質の高さを求めていきたい。そのためには、資料から分かることを交流する場面において、内容だけでなく、資料のどの事実をもとに考えたのかなど、根拠を明らかにさせる指導の充実を図る必要がある。